

## 2010 年度 小委員会活動成果報告

(2011 年 2 月 16 日作成)

小委員会名	アカデミック・スタンダード小委員会	
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (企画刊行運営委員会)	主 査 名：井上勝夫 就任年月：2009 年 4 月
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2011 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築および都市の環境工学に関する性能項目、性能基準（規準）、検証方法の学会としての基本姿勢を研究者や実務家、各種団体、行政に対して明示する。</li> <li>・ 新しい学術的成果や技術的展開をアカデミック・スタンダードとして示す。</li> </ul>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無 (2010 年度)	
	井上勝夫 (日本大学)、稲留康一 (奥村組)、北原博幸 (トータルシステム研究所)、小竿真一郎 (日本工業大学)、神谷博 (榊設計計画水系デザイン研究室)、川瀬隆治 (東急建設)、木村健一 (榊フジタ)、佐藤洋 (産業技術総合研究所)、土川忠浩 (兵庫県立大学)、中島康孝 (NPO 法人建築環境・設備技術情報センター)、平松友孝 (音・環境研究所)、柳宇 (工学院大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	○各運営委員会所属の WG 空気環境運営委員会 (微生物アカスタ改訂 WG、浮遊微生物サンプリング法学会規準作成 WG)、光環境運営委員会 (昼光に関する基準 WG、街路景観色彩のアカデミック・スタンダード準備 WG)	
2010 年度予算	650,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス：http://news-sv. aij. or. jp/kankyos8/

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アカデミック・スタンダード (AIJES) 「室内の臭気測定法－嗅覚測定法－」</li> <li>2. アカデミック・スタンダード (AIJES) 「建築環境・設備設計図書に関する学会規準」</li> </ol>
講習会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アカデミック・スタンダード (AIJES) 「室内の臭気測定法－嗅覚測定法－」 (9/24) 参加者数 60 名</li> </ol>
催し物	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アカデミック・スタンダード (AIJES) 「都市・建築空間の音声伝送性能評価規準 (仮)」 シンポジウム (5/27) 参加者 40 名</li> <li>2. アカデミック・スタンダード (AIJES) 「建築環境・設備設計図書に関する学会規準」 シンポジウム (1/31) 参加者数 23 名</li> <li>3. アカデミック・スタンダード (AIJES) 「環境磁場の計測方法に関する運用規準・同解説」 シンポジウム(7/21) 参加者数 46 名</li> </ol>
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パブリックコメント等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「都市・建築空間の音声伝送性能評価規準 (仮)」(案) パブリックコメント</li> <li>2. 「環境磁場の計測方法に関する運用規準・同解説」(案) パブリックコメント</li> <li>3. 「電磁シールド技術指針」(案) パブリックコメント</li> </ol>
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アカデミック・スタンダード刊行 2 件 (計画 6 件)</li> <li>2. 刊行準備 4 件 (計画 2 件)</li> </ol>
委員会活の問題点・課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一部のアカデミック・スタンダードの刊行に遅れが生じている</li> </ol>

\*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

- \* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- \* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

## 2010 年度 小委員会活動 自己評価

### (最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	B
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ AIJES は本年度までに 14 件を刊行し、また刊行間近なものも 4 件となっている。</li> <li>・ 改訂版検討の時期を迎える ES もあり、改訂作業のフローを検討した &lt;課題点&gt;</li> <li>○販売部数の伸び悩み</li> <li>・ 刊行しても販売部数が少ない ES もある。刊行委員会から販売見込みを精査した刊行部数の設定、出版の検討等を要請されている。ES 作成の決定の際に、規格自体の必要性とともに、販売計画（見込み）を具体的に提示してもらうことなども必要である（電子媒体での刊行は刊行委員会でも議論されている）</li> <li>・ すべてを単行本として刊行することには検討の余地がある（大切なことは ES を学会から発信することにある）</li> <li>・ 今後の ES 刊行のビジョン・戦略を検討するためには、各運営委員会傘下に ES 検討に係る常置委員会の設置等も検討する</li> <li>○ES 作成フローについて</li> <li>・ AIJES 総則の作成フローによれば、ワーキングドラフト完成後、企画刊行運営委員会傘下に小委員会を設置して2年間の中に刊行を完了することとなっているが、最近の傾向としては、順調に進捗している ES でも、2年間で ES が完成するところまでで出版が次年度にずれ込むことが多い。また、ES 完成まで至らないケースもある。作成フローの一部省略も含めた検討も必要である</li> <li>・ 外部査読者選定の基準が不明確であり、かつ、その指摘事項の報告等も義務付けられていない。学会推奨規格であることから、明確なルールを設ける必要がある</li> <li>○改訂フロー</li> <li>・ 5年ごとに改訂を検討することになっているが、改訂時のフローは作成フローに準ずることになっているが、改訂の程度によっては簡略化できると思われる。本年度作成した改訂の程度に応じた改訂フローを AIJES 総則に加える必要がある</li> </ul>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。